

たまき社協だより

2011.7
No.39

編集・発行 社会福祉法人 玉城町社会福祉協議会
〒519-0433 玉城町勝田4876-1
TEL 0596(58)6915/FAX 0596(58)6916
ホームページ <http://www2.mie-net.ne.jp/tamasya/>
E-MAIL tamasya@amigo2.ne.jp

元気がつながるたまき



6月5日(日)に開催した「元気ですたまきまつり」は、ボランティア団体、福祉団体、福祉施設、関係団体が集まり、はじめて、実行委員会を組織し実施しました。

「笑みの市」の開催や「チャリティーピンゴ」など内容を拡大し、多くの団体に関わっていただきました。

その中で、民生委員協議会は、東日本大震災発生を受けて「私たちが取り組めること」として、日頃の皆さんの防災意識アンケート「非常持ち出し品の準備チェックコーナー」を設けました。

また、非常食の試食が出来る「防災カフェ」や防災グッズの紹介なども行い、防災意識への働きかけを行いました。

なお、防災意識アンケートの結果は元気ですたまきまつり報告ページに掲載しています。

玉城町高齢化率 (平成23年6月末現在)
21.8% (65歳以上人口 3,362人)

※この広報は、共同募金配分金事業によって発行しております。

平成22年度 社協 事業報告・決算

5月13日、社協理事会、評議員会が開催され、次のように平成22年度社協事業が承認されました。

◆法人運営

理事会・評議員会の開催

- ①理事会 年5回、役員会1回
- ②評議員会 年4回
- ③監事会 年2回

社協会員・各種募金事業

①社協会員

会員区分	口数	会費
個人会員 (300円/口)	1,760	528,000円
団体会員 (5,000円/口)	56	280,000円
賛助会員 (10,000円/口)	29	290,000円
計	1,845	1,098,000円

②募金関係

募金の種類	期間	募金額
日赤募金	5月	1,841,508円
共同募金 歳末たすけあい募金	10月～12月	2,189,740円

調査・企画・啓発

- ①「元気ですたまま」まつり 6月6日開催
テーマ「自分の健康・みんなの
幸せ・元氣なすたまま」

- ②75歳以上のお一人暮らし実態アンケート
実施数 175名

普及宣伝

- ①広報「すたまま社協だより」発行 年4回

◆地域福祉事業

高齢者福祉事業

- ①高齢者サロン 町内7か所
- ②給食サービス 年19回 延べ687食
お楽しみ会 10月17日
- ③ホッとサークル 年4回 参加平均8名
- ④ほのぼの便 延べ利用人数116名
- ⑤ちよこつと有償ボランティア
登録利用人数 11名



二見お雛さまめぐりに
出掛けた「ホッとサークル」

障がい者福祉事業

- ①はっぴいサークル

年6回 延べ参加人数181名

子育て支援事業

- ①子育てサロン

年11回 延べ参加人数443名

総合相談事業

- ①心配ごと相談 17件
- ②社協窓口相談 40件

福祉教育事業

- ①福祉協力校

児童・生徒のボランティア活動
普及事業助成金 409,000円

- ②福祉作文募集

- ③福祉体験教室Ⅰ 延べ参加者 21名

福祉体験教室Ⅱ

「語り継ぐ戦争体験」参加者 119名

- ④「元気ですたまま」委員会設置

委員会の開催 7回

座談会の開催 1回

あいさつ強化デー 12回

権利擁護事業

利用者数 4名、延べ回数91回
福祉協力員 24名

福祉用具貸出

車いす 延べ48台

電動ベッド 延べ6台

その他 延べ23台

◆ボランティア活動推進事業

ボランティアセンター事業

登録者 368名
登録団体 21団体

- ①会議 1回

- ②ボランティア団体支援

助成金 115,000円

- ③交流事業 5回

- ④相談事業 30件

- ⑤講座 「ふくしを支える勉強会」

講師：NPOLスキューズストックヤード

事務局長 松田曜子氏

演題：地域の防災力を高めよう

～過去の被災地に学ぶ～



防災力を高めるため開催した
「ふくしを支える勉強会」

◆福祉団体助成事業

- ①老人クラブ連合会 会員数1,754名
- ②身体障害者福祉会 会員数 192名
- ③遺族会 会員数 314名
- ④母子寡婦福祉会 会員数 35名
- ⑤手をつなぐ親の会 会員数 25名



遺族会が開いた戦争体験発表

◆介護保険事業

- ①居宅介護支援事業 (ケアプラン作成) 延べ1,740件 (介護認定調査) 432件
- ②通所介護事業 延べ利用者数 10,337名
- ③訪問介護支援事業 延べ利用者数 6,571名

◆生活福祉資金事業

貸付件数 17件

◆バス事業(町受託事業)

- ①福祉バス 延べ利用人数 18,102名
- ②研修バス 利用件数 331件
- ③元気バス 登録人数 854名 延べ利用人数 12,644名
- ④複合福祉サービス事業 PDA(携帯端末)を利用した各種サービス事業



◆障害者自立支援事業

- ①ホームヘルプサービス 延べ利用人数 672名
- ②デイサービス 延べ利用人数 415名

◆小規模授産施設事業(町受託事業)

延べ利用人数 1,921名

◆シルバー人材センター事業

登録会員数 1,755名

この事業って、 どんな事業?

平成22年度に新しく始まった複合福祉サービスについて説明します。

PDAを使い「外出支援」「安全見守り」「安全情報配信」の3つのサービスを受けることが出来る事業です。

PDAとは?

スマートフォンのことです。

受け手のできるサービス

①外出支援

元気バスの予約をすることができます。

②安全見守り

一日3回、PDAに安否確認の連絡が届きます。また、緊急時に、社協等へ通報することができます。

③安全情報配信

地域の防災や不審者情報等を配信します。

※このサービス及び元気バスについて、インターネットの番組で紹介されています。アクセスはこちらへ

番組名「ちいきのきずな」

www.chikinokizuna.jp

平成22年度 一般会計収支決算(単位:円)

収 入	介護保険収入	128,110,893
	自立支援収入	3,736,764
	補助金収入	14,464,000
	助成金収入	2,791,000
	受託金収入	24,020,600
	共同募金配分金	1,763,937
	会費	1,098,000
	寄附金収入	1,461,337
	事業収入他	914,982
前期繰越	56,673,279	
計	235,034,792	

支 出	介護保険	通所介護事業	73,462,778
		訪問介護事業	19,582,395
		居宅介護事業	17,077,225
	自立支援事業	3,441,797	
	法人	40,630,839	
	福祉バス	13,239,748	
	元気バス	12,698,171	
	その他支出事業	39,705	
次期繰越	54,862,134		
計	235,034,792		

元気ですたまき体操をみんなで！



オープニング



元気ですたまき
コーラス隊



テントもたくさん並びにぎやかに！

笑みの市(商工会女性部)

『元気ですたまきまつり』
たくさんのご来場ありがとうございました！
梅雨入りの前の6月5日(日)、保健福祉会館で「福祉」「健康」「地域活動」の啓発紹介を目的に「元気ですたまきまつり」を開催しました。
たくさんのお親子連れをはじめ、様々な年代の方々にご参加いただき、元気が集まったまつりになりました。

『元気ですたまきまつり』

作業作品販売
(玉城わかば学園)



恒久平和活動 (遺族会)

手作りジャムの販売
(南勢ワークセンター)



各コーナーの紹介

ボランティア体験
使用済み切手の整理
(玉城たんぼぼ)



健康チェックコーナー
(生活福祉課)

夢工房グッズに
使われるさをり織体験



正しい
歩き方を
学ぶ
ウォーキング
スクール
(元気です
たまき
委員)



最新福祉用具の展示



水と土を守る会
(字区を取り組み)

新聞紙を活かした
エコバック作り
(花いっぱい運動)



絵手紙体験
コーナー
(ゆずりは会)

被災地でのボランティア活動支援募金
キャラクター Mee (ミイ)

被災地支援遠野市物産展



東日本支援に関わるコーナー



チャリティービンゴ大会の様子

義援金受付



民生委員コーナー

非常持ち出し品チェックアンケート集計

(単位:人)

7 あると 便利なもの		6 安全対策		5 日用品		4 貴重品		3 衣類等		2 食料品②		1 食料品①		項目
ウェットティッシュ・マスク・ビニール袋など		ヘルメット・防災ずきん・救急セット・厚底靴・常備薬など		手袋・ちり紙・ロープ・マッチ・懐中電灯・携帯ラジオ・メガネ・乾電池など		現金・小銭・預金通帳・印鑑など		衣類・タオル・毛布・寝袋など		乾パン・クラッカー・缶詰・レトルト食品など		飲料水		内容
183	67.8%	112	42.6%	200	71.7%	143	53.4%	132	49.8%	173	63.1%	211	73.0%	用意して
87	32.2%	151	57.4%	79	28.3%	125	46.6%	133	50.2%	101	36.9%	78	27.0%	用意して
270		263		279		268		265		274		289		合計

東日本大震災

被災地支援

〜岩手県大槌町へ 社協ブロック派遣〜

3月11日に東日本を襲った大地震では、被災地に大きな被害をもたらしました。

被災県より、全国社会福祉協議会に支援の依頼があり、社会福祉協議会の全国的な取り組みとして社協職員が各地に派遣されました。

この派遣で、当協議会からは、小山陽平を5月15日〜22日までの8日間、被災地に送り、ボランティアセンターの運営などに携わってきましたので、その状況を報告します。

高台から見た大槌町のまちなか



派遣職員
小山陽平

1、支援地

1) 大槌町の地域性

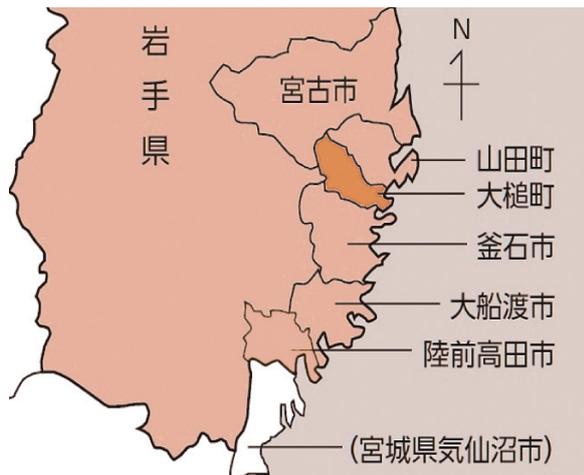
人口 15,293人。

大槌町湾と船越湾に面し、西部は山地で人口は海側に集中しており、主要道路や鉄道も海側に沿って走っています。

産業は、ノリやカキの養殖が盛んで、サケの産地でもあります。

吉里吉里海岸は、バーベキューやキャンプ、海水浴などで観光スポットになっています。

隣接市町は、山田町、宮古市、遠野市、釜石市。



2) 大槌町・大槌町社協の被害状況

町内は、津波、火災により甚大な被害を受け、4メートルある防波堤を越え、役場や社協の建物は、津波により流されました。(5月12日現在)

死者762名、行方不明者952名、避難者数2,031名。水道、電気とも完全復旧には、いたっていません。

沿岸部は壊滅状態で、海側から山側にかけては、全壊から半壊、床上浸水、床下浸水と徐々に津波被害が縮小しています。

大槌町社協は、職員30名(介護職含む)のうち8名が死亡または行方不明。8名の中には、会長や事務局長が含まれています。

現在の社協本部機能は、空き地にプレハブを建て、運営しています。

社協本部とは別に、デイサービスも運営しており、利用者と共にすべての職員が避難生活をおくり、職員の疲労は、ピークを越えています。

2、災害ボランティアセンター

1) 概要

災害ボランティアセンターの運営は、本部、サテライトそれぞれに、大槌町社協の職員をリーダーとして、東海ブロック

(三重県・岐阜県・名古屋市)と長野県・日赤派遣職員もそれぞれに、2名から3名配置されていました。

災害ボランティアセンター本部では、団体ボランティア受付やボランティア保険の加入、生活福祉資金の貸付、資機材の調達、炊き出しのコーディネート、町内避難所や家を回り、ニーズ把握などを行っていました。

3箇所あるサテライト(桜木町・沢山・吉里吉里)では、ニーズ調査、ボランティア派遣対応、資機材の貸し出し管理を行い、それぞれのエリアで、家財の搬出、家の泥だし、消石灰まき、家の周りの瓦礫の移動にボランティアが汗を流しました。その際に、見つかった個人の写真などを清掃する作業などもありました。

津波により全壊した大槌町役場



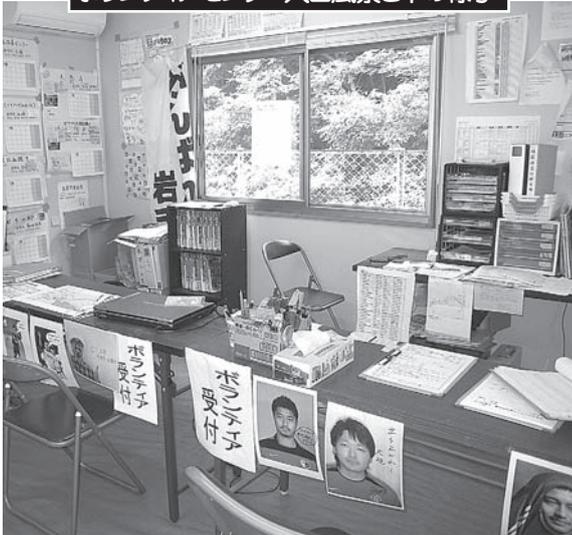
(2) 吉里吉里サテライト活動報告 (5月16日～21日活動)

吉里吉里地区は、もともと住民同士の結束力が強く、災害当日には、住民のみで対策本部を発足させ、地元にあるガソリンスタンドの経営者の許可のもと、地下に残った軽油・ガソリンなどを取り出し、避難所の暖房、重機を動かすのに使い、100人以上もの住民が瓦礫の撤去に乗り出し、生活道路の確保を目指した共助に富んだ地区でした。

そのようなこともあってか、吉里吉里サテライトでは住民からのニーズはわずかで、地域における住民同志の支え合いの力強さ、大切さを学び取ることができました。



ボランティアセンター入口風景と中の様子



ボランティア活動に参加された
片出壽哉さん(蚊野茶屋)に
お聞きしました



出発時の片出さん

みえ防災ボランティアに参加して

5月6日から10日間、岩手県山田町に行ってきました。

7日朝、現地に到着、そこで目にしたものは、テレビ画面を通して想像していたものをはるかに上回る、すさまじい光景でした。

今後我々が守るべきこと

そんな現地での作業は、支援センター内でボランティアへの仕事の割り振りが主で、時々家具洗浄、がれきの撤去、床下泥出し等々でした。

懸命に努力される被災者の姿には、元気が付けられ、活動を通じ被災者の方々やボランティアの皆さんとの「ふれあい」が私にとって貴重な財産となりました。

一番大切なものは、心構えです。自分の身は自分で守るといふことです。

いつ起きてもおかしくない環境の中で一人でも多くの生命を守り、将来にリレーすることが我々に与えられた最も大切な使命であると思います。

お知らせ

現地でのボランティア活動には、ボランティア保険の加入が必要になります。加入につきましては、玉城町ボランティアセンター(58-6915)にお尋ねください。

片出さんが参加した

みえ災害ボランティアセンター

「みえ発！ボラパック」を紹介します。

みえ災害ボランティア支援センターは、東日本大震災で被災した岩手県沿岸中部「山田町(やまだまち)」を応援しています。バスで現地に入り、滞在して活動するボランティアを募集しています。

【活動内容】

現地で被災者のニーズに応じた生活支援などを行います。

例えば、がれきの撤去や清掃、資材の整理、子どもの遊び相手、搬入など、状況によってニーズは変わります。

【申込み方法】

ホームページに掲載されているメールフォームまたはFAXでお申込みください。

申込書はみえ災害ボランティア支援センター(アスト津3階)に備付、およびホームページよりダウンロードしていただくことも出来ます。

【お問い合わせ】

みえ災害ボランティア支援センター
津市羽所町700番地アスト津3階
みえ県民交流センター内

電話 059-226-6916

FAX 059-226-6918

(受付時間9:00～17:00)

ホームページ <http://mvsc.jp/>

※その他、被災地支援に関する情報の提供も行っています。

日本赤十字社 玉城町分区より

日赤募金ご協力のお礼

5月より区長様を通じ皆様にご協力頂きました募金は、**1,847,900円**(H23.6.末現在)となりました。皆様の温かいご支援、ご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

尚、ご協力いただいた募金は、日本赤十字社三重県支部を通じ「災害救助活動」や「国際活動」など赤十字の活動資金に活用されるほか、今年度行う「福祉体験教室」や「社会福祉大会」の事業費として町福祉活動へ交付されます。

元気ですたまき委員会

ふだんのくらしのしあわせ

今年度は、「ウォーキング」を切り口に、コミュニケーションアップを図る機会を検討しています。

4月からの委員会の活動を紹介します。

4月27日、5月18日の委員会では、あいさつウォーキングについて検討を行い、6月5日には、元気ですたまきまつりの会場で、ウォーキングスクールを開催しました。

6月17日、テーマ「あいさつウォーキング」について様々な団体さんにお集まりいただき、地域福祉座談会を行いました。

秋ごろには、皆さんが参加できる形を考えています。

★(ぴんの会)で、料理作りに挑戦!★

毎月、第3火曜日に65歳以上のお一人暮らしの方が集まる「ぴんの会」を開催しています。6月21日の活動では、参加者の「料理を習いたい」の声で、減塩の和食作りに挑戦しました。

玉城病院の管理栄養士坂本先生のご指導で、いつもなら一人分の食事を用意される皆さんが、ワイワイガヤガヤ、エプロンに三角巾姿で張り切ってみえました。

出来た料理は、4品。「おいしいね。」「簡単でよかったね。」と皆さん満足の声があがっていました。

会員は、随時募集しています。お問い合わせください。



ボランティア会員募集!

玉城町手話愛好会

私たちは、聴覚に障害のある方々との交流を通じて手話の習得、向上を目指すとともに、手話の必要性や聴覚障害者への理解を求める活動を行っています。

毎週木曜日 19:30~21:00

保健福祉会館のボランティアルームで活動しています。初めての方でも大歓迎。まずは見学から、待ってます。

お問い合わせは

玉城町ボランティアセンター
☎58-6915

介護者リフレッシュ事業開催!

ホッとサークル(介護者のつどい)

日頃の介護疲れの予防・解消に在宅介護者の方と介護を終えられた介護OBの方を対象にリフレッシュ事業を行っています。

第1回は、6月27日(月)に多気町勢和の紫陽花を見に出掛けました。いつも、介護者同士の交流が図られ、参加者からは「ここに参加してほかの方と話をすると同じ思いを共有することが出来、気持ちが一掃する。」との声を頂いています。また情報交換の場ともなっていますので、ぜひご参加ください。参加にあたっては、社協へお尋ねいただくか、ケアマネージャーさんにご相談ください。

次の開催は、9月16日(金)「絵手紙体験と懇話会」を行います。あと11月・3月に開催する予定です。

身近な

社協相談窓口ご案内

心配ごと相談

毎月10日、20日、30日 13:00~15:00

玉城町保健福祉会館で 予約不要

相談員 民生児童委員、人権擁護委員、行政相談員

ご寄附ありがとうございました。(4月~6月)

玉城町母子寡婦福祉会 様……………10,000円

玉城健康教室一同 様……………100,000円

玉城苑サロン 様……………3,000円

岩本秀子 様(夢工房たまきへ)……………10,000円

匿名 様……………10,000円